

第2部

テーマ 1

「分かち合い 共に生きる」(人権課題:女性)

1 学習のねらい・人権教育の視点

- (1) 男女共同参画社会の実現に向けて、性別による固定的役割分担意識を見直し、家庭や職場において、一人ひとりが個性や能力を発揮できる生き方を主体的に選択しようという意欲や態度を身につける。

2 指導上の留意点

- (1) 生徒の家庭状況に留意し、家族の形態は多様であってよいことを伝える。
- (2) 結婚・出産の自由などにも留意するとともに、男女共同参画の解決策が家事育児の分担にのみ帰結しないように留意する。
- (3) 女性に対する暴力(DV、性暴力、性的搾取、セクシュアル・ハラスメントなど)の根絶についての学習やSDGsの学習と関連づけて展開することも可能である。

3 展開例

学習活動	指導上の留意点、使用する資料
1 「男女共同参画」の概要を確認する。	○ リード文「だれもが～十分に発揮できる」を解説する。背景としての女性差別の事例や女子差別撤廃条約(キーワード参照)、男女雇用機会均等法などを確認し、男女格差が今なお課題である事を確認する。
世界各国と比べ、日本の男女格差の課題は何だろうか。	
2 「世界各国の男女格差」を見て、世界の中での日本の状況や課題を確認する。	○ ジェンダーギャップ指数の表から、日本の現状について、男女格差の解消が世界よりも遅れていることを確認する。 政治分野が最も遅れているが、授業では「経済」分野(雇用や仕事での活躍)について着目させる。
日本のGGIの順位はなぜこれほど低いのだろうか。	
3 「日本の家事労働の分担状況」から、女性の活躍推進に向けて、無償労働の分担を進めるために必要なことを考える。	○ 育休取得率や育児・家事時間の男女差に気づかせ、役割分担や、性別に関係なくそれぞれの個性・能力を生かした働き方・生き方の大切さについて考えさせる。
女性の活躍がこれからも促進されるために必要なことは何だろうか。	
4 「経済」分野に関連して、女性の雇用・労働、男性の育児休暇取得者の事例を読み考える。	○ 男性が多い「杜氏」等へ女性の活躍の場が広がっている点、管理職として活躍している点、一方でケースとしては少ない点を確認する。
5 気づいたことやこれからの生活に生かしていこうと思うことをワークシートに記入する。	○ SDGsとも関連して「DV」について調べてみることや、ジェンダーギャップ指数の上位国の取組について調べるよう促す。

4 参考資料

- (1) 教職員用指導資料「男女共同参画社会の実現をめざす教育の実践に向けて」(改訂版)【基本的な考え方編】(平成30年2月)[QRコード左]
- (2) 同 (改訂版)【実践事例編】(平成30年3月)[QRコード右]



[ワークシート]

分かち合い 共に生きる

年 組 番 名前

1 男女共同参画とは何だろうか。

--

2 世界各国と比べ、日本の男女格差の課題を考えよう。

--

3 ジェンダーギャップ指数(GGI)について、なぜ日本はこれほどまでに低いのだろうか。

--

4 女性杜氏と女性管理職の例、男性の育児休暇取得と家事参加の事例を読んで気づいたことや学んだことをあげてみよう。

女性杜氏の事例
女性管理職の事例
男性の育児休暇取得者の事例

5 女性の活躍がこれからも促進されるために必要なことを考えよう。

--

6 今日の感想や、気づいたこと、これから心がけたり行動したりしていこうと思うことを書こう。

--